

安全データシート

作成日： 2023 年 01 月 13 日
最終改訂日： 2024 年 09 月 30 日

1. 製品及び会社情報

化学品等の名称： ATTBLIME ABX-G
製品コード： ATTBLIME ABX-G
供給者の会社名： 株式会社原製作所
住所： 長野県上田市保野 2 4 8-7
電話番号： 0268-38-3520
ファックス番号： 0268-38-3843
電子メールアドレス： scan@hara-sss.co.jp
緊急連絡電話番号： 0268-38-3520
推奨用途： 3Dスキャナでデジタル化する際、反射面・黒モノ・透明なオブジェクトの表面に映り込む光や周囲の像を、一時的に消すためのつや消しの塗布剤の用途。
使用上の制限： 3Dスキャナ用のつや消し塗布剤以外の用途は想定していないので、他の用途には使用しないで下さい。
国内製造事業者等の情報(了解を得た上で)： ドイツ製

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性

引火性液体	区分 2
-------	------

健康に関する有害性

眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分 2 B
発がん性	区分 1 A
生殖毒性	区分 1 A
特定標的臓器／全身毒性（単回ばく露）	区分 3（気道刺激性、麻酔作用）
特定標的臓器／全身毒性（反復ばく露）	区分 1（肝臓）
	区分 2（中枢神経系）
誤えん有害性	区分 1

環境に対する有害性 —

水生環境有害性 短期（急性）	区分 3
水生環境有害性 長期（慢性）	区分 3

注）上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「分類対象外」、「区分に該当しない」または「分類できない」に該当する。なお、健康有害性については後述の 11 項に、「分類対象外」、「区分に該当しない」「区分外」または「分類できない」の記述がある。

【GHSラベル要素】



【注意喚起語】 危険

- H225 引火性の高い液体及び蒸気
- H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
- H320 眼刺激
- H335 呼吸器への刺激のおそれ（気道刺激性）
- H336 眠気又はめまいのおそれ（麻酔作用）
- H350 発がんのおそれ
- H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
- H372 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害（肝臓）
- H373 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ（中枢神経系）
- H402 水生生物に有害
- H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き】

安全対策

- P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P260 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
P264 取扱い後は、触れた部分を水又は微温湯を流しながら石鹸を使ってよく洗うこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置

- P301+P310 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P308+P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
P314 気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。
P331 無理に吐かせないこと
P337+P313 眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。

保管

- P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
P405 施錠して保管すること。

廃棄

- P501 内容物／容器を「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に則って廃棄すること。

GHS 分類に関係しない又は GHS で扱われない他の危険有害性：情報なし

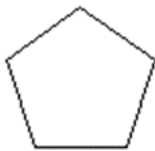
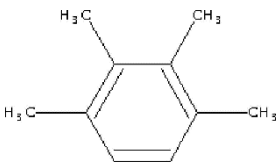
重要な徴候及び想定される非常事態の概要：情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質／混合物の区別：混合物

化学名又は一般名：ATTBLIME ABX-G

慣用名又は別名：塗布剤

一般名	エタノール	シクロペンタン	トリ又はテトラメチルベンゼン
濃度又は濃度範囲	25～50%	25～50%	<5%
分子式（分子量）	C ₂ H ₆ O (46. 07)	C ₅ H ₁₀ (70. 13)	C ₁₀ H ₁₄ (134. 22)
化学特性 (示性式又は構造式)	CH ₃ —CH ₂ —OH		
CAS 登録番号 (CAS RN)	64-17-5	287-92-3	488-23-3
官報公示整理番号			
(化審法)	2-202	3-4166	3-7
(安衛法)	公表	3-(3)-25	公表
GHS 分類に寄与する成分 (不純物及び安定化添加物も含む)	なし		なし

4. 応急措置

吸入した場合：

- ・ 新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：

- ・ 皮膚を速やかに洗浄すること。
- ・ 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
- ・ 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合：

- ・ 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合：

- ・ 口をすすぐこと。医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：

- ・ 吸入した場合：蒸気は麻酔作用があり、眼や気道を刺激する。
- ・ 吸入した場合：眼、鼻及び咽頭の粘膜並びに皮膚の炎症。発咳刺激、意識朦朧、眠気、意識喪失。
- ・ 皮膚に付着した場合：液体と接触すると、眼及び皮膚を刺激し、皮膚を脱脂する。
- ・ 皮膚に付着した場合：肝臓及び腎臓の障害が起こりうる。
- ・ 眼に入った場合：液体・蒸気は眼を刺激する。発赤、痛み、虹彩炎。
- ・ 飲み込んだ場合：運動失調、感覚消失、腹痛、吐き気、嘔吐。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項：

- ・ 区域内に入る前に酸素濃度を測定する。
- ・ 火気に注意する。有機溶剤用の防毒マスクがあればそれを着用する。

医師に対する特別な注意事項：対症療法的に治療する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤：水噴霧、対アルコール性泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤：棒状注水

火災時の特有の危険有害性：

- ・ 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。
- ・ 加熱により容器が爆発するおそれがある。
- ・ 消火後再び発火するおそれがある。
- ・ 火災によって刺激性、又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法：

- ・ 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
- ・ 容器が熱に晒されているときは、移さない。
- ・ 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
- ・ 引火点が極めて低い：散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。
- ・ 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。
- ・ 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
- ・ 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置：

- ・ 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置：

- ・ 全ての着火源を取り除く。
- ・ 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- ・ 関係者以外の立入りを禁止する。
- ・ 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
- ・ 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
- ・ 風上に留まる。低地から離れる。
- ・ 密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項：

- ・ 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

- ・ 環境中に放出してはならない。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材：
- ・ 危険でなければ漏れを止める。
 - ・ 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
 - ・ 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。
 - ・ 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
 - ・ 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。
 - ・ 蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。
- 二次災害の防止策：
- ・ 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
 - ・ すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

【技術的対策】

- ・ 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

【安全取扱注意事項】

- ・ 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
- ・ 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
- ・ ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・ 接触、吸入又は飲み込まないこと。
- ・ 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。
- ・ 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること

【接触回避】；「10. 安全性及び反応性」を参照。

【衛生対策】；この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。

保管：

安全な保管条件：

- ・ 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。
- ・ 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。
- ・ 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。
- ・ 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なため枘を設けること。
- ・ 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
- ・ 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。
- ・ 冷所、換気の良い場所で保管すること。容器は直射日光や火気を避けること。
- ・ 酸化剤から離して保管する。

安全な容器包装材料：

- ・ 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等：

化学名又は一般名	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH
エタノール	未設定	未設定	TLV-STEL 1,000ppm (2009 年)
シクロペンタン	未設定	未設定 (2014 年)	TLV-TWA (600 ppm) TLV-STEL (- ppm) (2014 年)

設備対策：

- ・ 製造者が指定する防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。
- ・ 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・ この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
- ・ 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。

保護具；

- ・ 呼吸用保護具：適切な呼吸器保護具を着用すること。
- ・ 手の保護具：
 - 1) 手袋の材質は、製品/物質/調剤に対して不浸透性で耐性がなければならない。
 - 2) 適切な手袋の選定は、材質だけでなく、さらなる品質基準にも左右され、製造業者によって異なる。
- ・ 目、顔面の保護具：
 - 1) 適切な眼の保護具を着用すること。
 - 2) 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）
- ・ 皮膚及び身体の保護具：
 - 1) 不浸透性の保護衣、顔面シールドなど、適切な保護具を着用すること。
 - 2) 安全靴、耐火服。

特別な注意事項：情報なし

9. 物理的及び化学的性質：

物理的状态	液体
色	無色
臭い	特徴的
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	49.5°C (CAS: 287-92-3 シクロペンタン)
可燃性	可燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	下限；3.5 Vol % (CAS: 64-17-5 エタノール) 上限；15 Vol % (CAS: 64-17-5 エタノール)
引火点	-20°C (CAS: 287-92-3 シクロペンタン)
自然発火点	363°C (CAS: 64-17-5 エタノール)
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度：	混和しにくい。 水と混和：ICSC(2000) 殆どの有機溶剤と混和： SDB(2013) (CAS: 64-17-5 エタノール)
n-オクタノール／水分分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	530hPa (CAS: 287-92-3 シクロペンタン)
密度及び/又は相対密度	0.782 g/cm ³
相対ガス密度 (空気＝1)	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ (放射性、かさ密度、燃焼持続性)	溶剤含有量；88.5 % 固形物含有量；11.5 %

10. 安定性及び反応性

安定性：	通常の取扱いでは安定である。
化学的安定性：	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性：	エタノール； 次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニアと徐々に反応し、火災や爆発の危険をもたらす。硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件：	加熱、空気との接触。 高温・スパーク・裸火のばく露、混触危険物質との接触。
混触危険物質：	エタノール； 次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニア、硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤
危険有害な分解生成物：	一酸化炭素、二酸化炭素などの有害ガスが発生する。

1 1. 有害性情報

危険有害性項目	分類結果	分類根拠
急性毒性（経口）	区分に該当しない	3成分とも区分に該当しない。依って、混合物は区分に該当しないとした。
急性毒性（経皮）	分類できない	1成分は区分に該当しない。2成分はデータなしまたはデータ不足のため分類できない。混合物は、データ不足のため分類できないとした。
急性毒性（吸入：気体）	区分に該当しない（分類対象外）	3成分は、GHSの定義における液体である。依って、混合物は区分に該当しないとした。
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない	1成分は区分に該当しない。2成分はデータなしまたはデータ不足のため分類できない。依って、混合物は分類できないとした。
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない	3成分は、データなしまたはデータ不足のため分類できない。依って、混合物は分類できないとした。
皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない	2成分は区分に該当しない。1成分は区分2で、その成分濃度は $<5\%$ ($>0.1\%$) であることから、区分に該当しない、依って、混合物は区分に該当しないとした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2B	1成分は区分2Aで、その成分濃度は $<5\%$ ($<10\%$) であることから、区分に該当しない。 他の2成分は区分2Bで、その成分濃度が $50\sim95\%$ ($>10\%$) となるので、混合物は区分2Bとした。 エタノール (25～50%) ; 区分2B、ウサギを用いた2つのDraize試験 (OECD TG 405) において、中等度の刺激性と評価されている (SIDS (2005))。このうち、1つの試験では、所見として角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫がみられ、第1日の平均スコアが角膜混濁で1以上、結膜発赤で2以上であり、かつほとんどの所見が7日以内に回復した (ECETOC TR 48 (2) (1998)) ことから、区分2Bに分類した。 シクロペンタン (10～25%) ; 区分2B、ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG 405相当) の報告が2件ある。一方の試験では、適用後に洗浄をおこなった試験で、適用1時間後に結膜の赤色化がみられた (6/6匹) が適用72時間後に回復した (SIDS (2010))。もう一方の試験 (非洗浄) では、結膜の赤色化がみられ (6/6匹)、虹彩炎及び結膜浮腫 (1/6匹) がみられたが、適用4日後に回復した (SIDS (2010))。
呼吸器感受性	分類できない	3成分は、データなしまたはデータ不足のため分類できない。依って、混合物は分類できないとした。
皮膚感受性	分類できない	3成分は、データなしまたはデータ不足のため分類できない。依って、混合物は分類できないとした。
生殖細胞変異原性	分類できない	3成分は、データなしまたはデータ不足のため分類できない。依って、混合物は分類できないとした。
発がん性	区分1A	1成分は区分1Aで、その成分濃度は $25\sim50\%$ ($>0.1\%$) であることから、混合物は区分1Aとした。 他の2成分は、データ不足のため分類できない。 エタノール (25～50%) ; 区分1A、エタノールはACGIHでA3に分類されている (ACGIH (7th, 2012))。また、IARC (2010) では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされているため、区分1Aに分類する。
生殖毒性	区分1A	1成分は区分1Aで、その成分濃度は $25\sim50\%$ ($>0.3\%$) であることから、混合物は区分1Aとした。 他の成分は、データなしまたはデータ不足のため分類できない。 エタノール (25～50%) ; 区分1A。ヒトでは出生前にエタノール摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている。奇形には小頭症、短い眼瞼裂、関節、四肢及び心臓の異常、発達期における行動及び認知機能障害が含まれる (PATY (6th, 2012))。これらはヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられるため、区分1Aとした。なお、胎児性アルコール症候群は妊娠中に大量かつ慢性的にアルコールを飲んだアルコール依存症の女性と関連している。産業的な経口、経皮、吸入ばく露による胎児性アルコール症候群の報告はない。また、動物実験でも妊娠ラットに経口投与した試験で奇形の発生がみられている。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分3（気道刺激性、麻酔作用）	2成分は区分3（気道刺激性、麻酔作用）で、その成分濃度は $50\sim95\%$ ($\geq 20\%$) である。1成分は区分3（気道刺激性）で、その成分濃度は $<5\%$ である。依って、混合物は区分3（気道刺激性、麻酔作用）とした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1（肝臓） 区分2（中枢神経系）	1成分は区分1（肝臓）、区分2（中枢神経系）で、その成分濃度が $25\sim50\%$ ($\geq 10\%$) であることから、混合物は区分1（肝臓）、区分2（中枢神経系）とした。 他の成分は、データなしまたはデータ不足のため分類できない。

		エタノール(25～50%)；区分1(肝臓)、区分2(中枢神経系)。ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する(DFGOT vol. 12 (1999))との記載に基づき区分1(肝臓)とした。また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国FDAは3種類の治療薬を承認しているとの記述がある(HSDB (Access on June 2013))ことから、区分2(中枢神経系)とした。
誤えん有害性	区分1	1成分は区分1で、その成分濃度は25～50%(>10%)であることから、混合物は区分1とした。 他の成分は、データなしまたはデータ不足のため分類できない。 シクロペンタン(25～50%)；区分1、炭化水素であり、動粘性率が0.59 mm ² /sec. (20°C、CERI 計算値)である。

1 2. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	1成分は区分に該当しない。1成分は分類できない。1成分は区分3で、その成分濃度は25～50%(>25%)であることから、混合物は区分3とした。 シクロペンタン(25～50%)；甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 10.5 mg/L (SIDS, 2008)であることから、区分3とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	1成分は区分に該当しない。1成分は分類できない。1成分は区分3で、その成分濃度は25～50%(>25%)であることから、混合物は区分3とした。 シクロペンタン(25～50%)；信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急速分解性がなく(OECD 301Fによる試験で28日後の分解度：0% (SIDS, 2008))、甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 10.5 mg/L (SIDS, 2008)であることから、区分3とした。
残留性・分解性	データなし。
生体蓄積性	データなし。
土壤中の移動性	データなし。
オゾン層への有害性	各物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3. 廃棄上の注意；環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報：

残余廃棄物：

- ・ 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
- ・ 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
- ・ 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
- ・ 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。
- ・ 焼却：アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。
- ・ 活性汚泥処理：低濃度の排水は活性汚泥処理装置で処理する。

汚染容器及び包装：

- ・ 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制：

- ・ 国連番号：1993
- ・ 品名：その他の引火性液体(他の危険性を有しないもの)、FLAMMABLE LIQUID, N. O. S.
- ・ 国連分類：CLASS 3
- ・ 容器等級：II
- ・ 海洋汚染物質(該当・非該当)：非該当
- ・ MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質：非該当
- ・ 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：貨物用輸送機に限る。

国内規制がある場合の規制情報

- ・ 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。

- ・ 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。
- ・ 危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。
- ・ 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

緊急時応急措置指針番号： 1 2 7

1 5. 適用法令

消防法；	・ 第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体（法第2条第7項危険物別表第1・第4類）；
労働安全衛生法； エタノール シクロペンタン	・ 危険物・引火性の物 ・ 名称等を表示すべき危険有害物（法第57条、施行令第18条別表第9） ・ 名称等を通知すべき危険有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9） ・ リスクアセスメントを実施すべき危険有害物（法第57条の3）
化学物質排出把握管理促進法	該当しない
化審法	優先評価化学物質 該当しない。
毒劇法	該当しない
大気汚染防止法	揮発性有機化合物；イソプロアルコール
危険物船舶運送及び貯蔵規則	引火性液体類（危規則第3条危険物告示別表第1）；エタノール、シクロヘプタン
航空法	引火性液体（施行規則第194条危険物告示別表第1）；エタノール、シクロヘプタン
海洋汚染防止法	有害液体物質（Z類物質）（施行令別表第1）；エタノール 有害液体物質（Y類物質）（施行令別表第1）；シクロペンタン
船舶安全法	引火性液体類（危規則第2、3条危険物告示別表第1）；エタノール、シクロヘプタン
港則法	その他の危険物・引火性液体類（法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表）；エタノール、シクロヘプタン

1 6. その他

「参考文献」

- 1) Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN
- 2) Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 21th edit., 2019 UN IMDG Code, 2020 Edition (Incorporating Amendment 40-20)
- 3) RTECS: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances
- 4) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH(2000)
- 5) International Chemical Safety Cards (ICSC)
- 6) Hazardous Substances Data Bank (HSDB)
- 7) GESTIS Substance database (GESTIS)
- 8) 2022 TLVs and BEIs. (ACGIH)
- 9) JIS Z 7252：2019、JIS Z 7253：2019
- 10) 2021 許容濃度等の勧告（日本産業衛生学会）
- 11) 製品評価技術基盤機構(NITE)；GHS分類対象物質データ、初期リスク評価書、有害性評価書
- 12) 国際化学物質安全性カード（ICSC）日本語版 化学工業日報社(1992)
- 13) ERG 2016 版 緊急時応急措置指針—容器イエローカードへの適用
- 14) 中央労働災害防止協会 GHS モデル SDS 情報
- 15) 有機合成化学辞典（社）有機合成化学協会 講談社サイエンティフィック

責任の限定について

この安全データシートは、世界調和システム（GHS）に従って作成されています。本 SDS に記載された情報は、発行日現在における当社の知識、情報、確信の範囲内で正確なものです。記載された情報は、安全な取り扱い、使用、加工、保管、輸送、廃棄、放出のためのガイダンスとしてのみ設計されており、保証または品質仕様とみなされるものではありません。本情報は、指定された特定の材料にのみ関連するものであり、本文中で指定されていない限

り、他の材料と組み合わせて使用される材料や、いかなる工程で使用される材料に対しても有効であるとは限りません。本書には特定の危険性が記載されていますが、これらが存在する唯一の危険性であることを保証するものではありません。
